

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
E140P004	教育支援実践研究 (Practical study of learning support )																			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択必修	2	3・4	教育学部			氏名 前田 菜摘, 森下 覚, 麻生 良太														
						E-mail managing-sp@oita-u.ac.jp 内線														
授業の概要	学校現場を継続的に訪問し、校外学習なども含む教育現場のさまざまな教育活動を観察したり、教科指導の補助などを体験したりすることによって児童・生徒とコミュニケーションを通じてふれあい、教育の楽しさや喜びを体験することを通して、教職を目指す者としての自覚を高める。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	児童・生徒とコミュニケーションを通じてふれあうことができる。																			
目標2	体験から学ぶということについて自覚することができる。																			
目標3	教職の実際について自分の考えを深めることができる。																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	事前指導																			
2	サポート活動・活動報告(1)																			
3	サポート活動・活動報告(2)																			
4	サポート活動・活動報告(3)																			
5	サポート活動・活動報告(4)																			
6	サポート活動・活動報告(5)																			
7	サポート活動・活動報告(6)																			
8	サポート活動・活動報告(7)																			
9	サポート活動・活動報告(8)																			
10	サポート活動・活動報告(9)																			
11	中間指導																			
12	サポート活動・活動報告(10)																			
13	サポート活動・活動報告(11)																			
14	サポート活動・活動報告(12)																			
15	サポート活動・活動報告(13)																			
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	大学における学修・教育実習等で学んだ知識をもとに、学校現場における活動・問題解決を体験する。活動の振り返りや大学担当教員・活動校教員とのコミュニケーションをもとに省察的に教師としての力量を高める。										工 夫 そ の 他 の	学校での活動は以下に示す活動の合計15ポイント以上を基本とする。1ポイント 午前、午後、放課後における数時間程度の活動。2ポイント 校園の授業開始～授業終了時限までの1日の活動(6時間程度)。3ポイント 宿泊を伴う活動。							
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	活動校における担当学年・教科を踏まえ、学習支援が円滑に進めることができるよう、指導内容の予習をしておく(1時間)																		
	事後学修	毎回の活動後に活動報告を作成・提出する(1時間)																		
教科書	特に指定しない																			
参考書	田島・中村・溝上・森下覚(2016) 「学校インターンシップの科学 - 大学の学びと現場の実践をつなぐ教育 - ナカニシヤ出版 ISBN978-4-7795-1048-9 価格4,000円+税																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	15ポイント以上の活動申告	25%																		
	毎回の活動記録の提出	25%																		
	中間課題の提出	25%																		
	最終レポートの提出	25%																		
以上の条件を満たすことが単位履修の前提である。そのうえで、活動記録・最終レポートの内容を踏まえて評価を行う。																				
注意事項	この科目は、大分市内の学校で支援活動を行うため、支援要請の内容によって、対象学年・受講人数を制限することがある。実際に学校現場で体験活動を行うことから、受講者は教師としての使命感、責任感を持つものに限る。活動態度の悪いものは途中で活動を打ち切ることがある。																			
備考	この科目は『地域創生教育科目』です。また、履修登録方法については、前期に説明会を行うので、掲示に注意しておくこと。「教育支援実践研究」は「教育支援実践研究」を過去に履修した者を対象とした科目となります。																			
リンク																				
	URL																			